

中長期目標 (学校ビジョン)	「昨日の自分」を越えていく（出会い＋挑戦＝成長） 1 学ぶ意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」→授業改革 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」→場の設定・声かけ	今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 職業観、勤労観の醸成 4 進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得 5 地域社会への貢献
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					中 間 評 価		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	度末に向けての改善策
【基礎学力の向上】	○家庭学習を充実させ、社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○平均家庭学習時間は、昨年度の調査で全生徒の1日あたり30分以下である。 ○課題提出や小テストを繰り返し実施して、基礎学力の向上や家庭学習の定着を図り、基礎力診断テストでは1、2年生とも好結果であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考査前の放課後に講習を行い、学力の底上げに取り組んだ。 ○各種検定取得には関心が高く、放課後にも意欲的に学習に取り組んでいる。 ○リーディングスキルテストを実施したが、分析・その後の対策の検討ができていない。	○生徒は進路を意識して家庭学習が定着している。 ○全生徒の1日の平均家庭学習時間が1時間以上である。 ○教員がICTやアクティブラーニングなどの手法を活用した結果、生徒が主体的・能動的に授業に取り組む場面が多い。 ○読解力が身についている。	○定期考査、資格試験、進路模試や定期的な課題提出により家庭学習の習慣化を図るとともに、確認テストや4月と11月の家庭学習時間調査を生徒にフィードバックする。 ○成績不振者に対して、放課後の学習会や長期休業中などに講習会を実施する。 ○ICTの活用やアクティブラーニング・協働学習等の研修会を実施する。 ○リーディングスキルテストを分析し、読解力が伸びるような指導を実施する。			
【基本的生活習慣の確立】	○知・徳・体のバランスが取れた生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○問題行動等は極めて少なく、日常の生活態度はおおむね良好な状況であるが、挨拶や清掃活動等では積極性があまりない。 ○交通ルールの遵守についてはさらに意識を高めるための啓発活動が必要である。 ○人間関係に悩み、解決方法が分からず不安な生徒にきめ細かく対応した。 ○人権教育講演会、それを受けた密度の濃いLHRが展開できた。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識が高まる。 ○情報モラルの意識が高まり、SNSに関わるトラブルが起きない。 ○ハイパーQ Uを活用するなどした結果、生徒の自己肯定感が高まる。 ○「身近な差別」に気づき、その解消に立ち向かっていける。	○登下校時や授業、部活動等あらゆる機会を捉え、ルール・マナー・モラルを繰り返し指導する。 ○生徒指導部、進路指導部など関係各部と連携して規範意識の醸成に取り組む。 ○情報モラル講演会・非行防止教室等を実施する。 ○ハイパーQ U職員研修会を通じ、生徒について情報交換を行い、対応を共有するとともに、スクールカウンセラーや関係教職員、保護者や関係機関と連携する。 ○人権教育講演会や人権教育LHRにより、生徒の人権意識の向上を図る。			
【職業観、勤労観の醸成】	○系統立てた指導により、適切な職業観・勤労観持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む生徒の育成 ○インターンシップ等、体験学習の充実	○進路LHRやインターンシップ等の経験、スタディサプリや面談、学校企業見学を通じて勤労観は高まっているが、具体的な行動に移す段階には至っていない。 ○進路講演会、小論文LHR，学校企業見学等を通して職業観、勤労観の育成をはかることができた。 ○卒業後に必要であると思われることを想定した学習指導（身だしなみ講座、一人暮らし講座、租税教室など）が効果的だった。 ○衆議院選挙があったことに伴い、主権者教育の指導ができた。	○調べ学習を通じて、自ら進んで職業研究に取り組む態度が身につく。 ○様々な活動・体験を通して、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるようになる。 ○進路実現に向けて、インターンシップを行う意義を理解し、その目標を達成する。	○本人・保護者の要望を聞き、担任、進路指導部や外部関係機関とも連携をとりながら進路実現を支援する。 ○外部人財を活用し、各学年の特性に応じた講習会・講演会を実施し、早い時期から進路意識を高める指導を行う。 ○インターンシップ等の実践を受け身ではなく、自発的な姿勢で臨む事を強く意識させ、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるように指導する。			
【進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得】	○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○専門人材育成重点校として、進路実現に向け、資格取得を推進し、より高度な専門資格を取得	○学年と進路指導部が連携をし、個別指導に取り組み、1月末時点で就職内定率100%を達成した。 ○標準的な資格取得については意欲・関心が強く学習にも熱心であるが、検定上位級の取得を意欲的に目指す生徒が少ない。 ○基本情報処理技術者試験（国家試験）の午前試験免除に認定され、資格取得が容易になる体制を確立できた。 ○調理師養成施設として7限授業が定着し、授業時間数の確保を行っている。 ○子どものための愛情弁当コンテストでは2年連続全国1位に輝いた。	○進路実現に向けた情報収集、資格取得、知識や技能の習得に意欲的に取り組む。 ○進路を意識して、積極的に検定上位級取得を目指す。 ○検定試験に向けて、自身で計画を立て効率的に学習する。 ○各種検定の合格率が重点校制度の目標を達成している。	○進路指導部・学年団と連携して、早い段階から進路を見据えた情報を提供し、生徒個々の進路目標の自己決定を支援する。 ○進路行事・模試・資格試験などの趣旨を明確に伝え、進路意識を高める。 ○進路LHRの中で自身の適性を知り、職業調べ、学校調べ等を行う。 ○検定の上位級試験や多種目の検定試験を意欲的に受験する生徒を増やす。 ○調理師免許や技術考査への全員取得にむけた授業や課外指導を継続する。 ○各種コンクールの参加を呼びかけ、受賞や表彰される生徒を増やす。			

【地域社会への貢献】	○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与するリーダーの育成 ○地域活力を導入して、学校や地域で主体的に行動し、地域社会の発展に貢献する人財の育成	○北朝鮮情勢悪化のため、韓国ハンセム高校との交流ができなかった。 ○課題研究で、地域に出てイベントを行ったり、販売実習を企画した。また、地域の食材や産物の特性や魅力を知る取組をし、一部商品化も実現した。 ○家庭クラブ活動等で中海アダプトプログラムや地域イベント補助の地域活動に参加し貢献した。 ○社会人講師活用事業や保育実習、授業サポート等の交流体験学習により、コミュニケーション力等の学習成果が高まった。 ○2年生が主体となった生徒会活動、部活動も軌道に乗り、各活動での成果があらわれてきた。学校祭では、生徒会執行部、学校祭の団長・副団長が全校をまとめるリーダーとして活躍した。 ○環境リーダーや地域振興のための活動を学校活動として取り組んでいる。	○国際交流事業に参加し、体験を通して国際的視野が広がる。 ○何事にも主体的に取り組み、リーダーとして集団をまとめる。 ○この地域の良さを再認識し、将来的に主体的に企画・実行するリーダーを目指せる。 ○課題研究や各種活動を通して地域をより深く理解し、コミュニケーション力・プレゼンテーション力が身についている。	○各種国際交流事業を生徒に紹介し、意欲的に事業に参加する生徒を増やし支援する。 ○課題研究の各研究分野の相互の連携、商業学科と家庭学科との連携、進路指導部を通じた企業との連携など、本校の魅力ある取組を積極的に地域に情報発信する。 ○授業や家庭クラブの取組の中で地域や企業との関わりを大切にし、中海アダプトプログラムや地域イベントの補助等の地域活動に貢献する。 ○地域の保育園や小学校との交流授業や各種発表会に向けた指導の充実により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。 ○生徒会活動や部活動など自分の適性、能力が発揮される場面を意識させ、より積極的な行動を促すとともにやり遂げることによって得られる充実感や責任感を実感させてリーダーを育成する。			
------------	---	---	--	--	--	--	--

評価基準（5段階）

A：十分に達成
〔100%〕

B：概ね達成
〔80%程度〕

C：変化のきざし
〔60%程度〕

D：まだ不十分
〔40%程度〕

E：目標・方策の見直し
〔30%以下〕